

参天製薬株式会社 決算説明会

2017年度 連結業績概要 2018年度 連結業績予想



代表取締役会長 兼 CEO

黒川 明

代表取締役社長 兼 COO

谷内 樹生

参天製薬の基本理念

天機に参与する

「目」をはじめとする特定の専門分野に努力を傾注し、
これによって参天ならではの知恵と組織的能力を培い、
患者さんと患者さんを愛する人たちを中心として、
社会への寄与を行う。

2017年度 第4四半期（累計） 連結業績概要

2017年度通期 決算概要（対前期）

～売上収益・利益ともに対前期比2桁で伸長

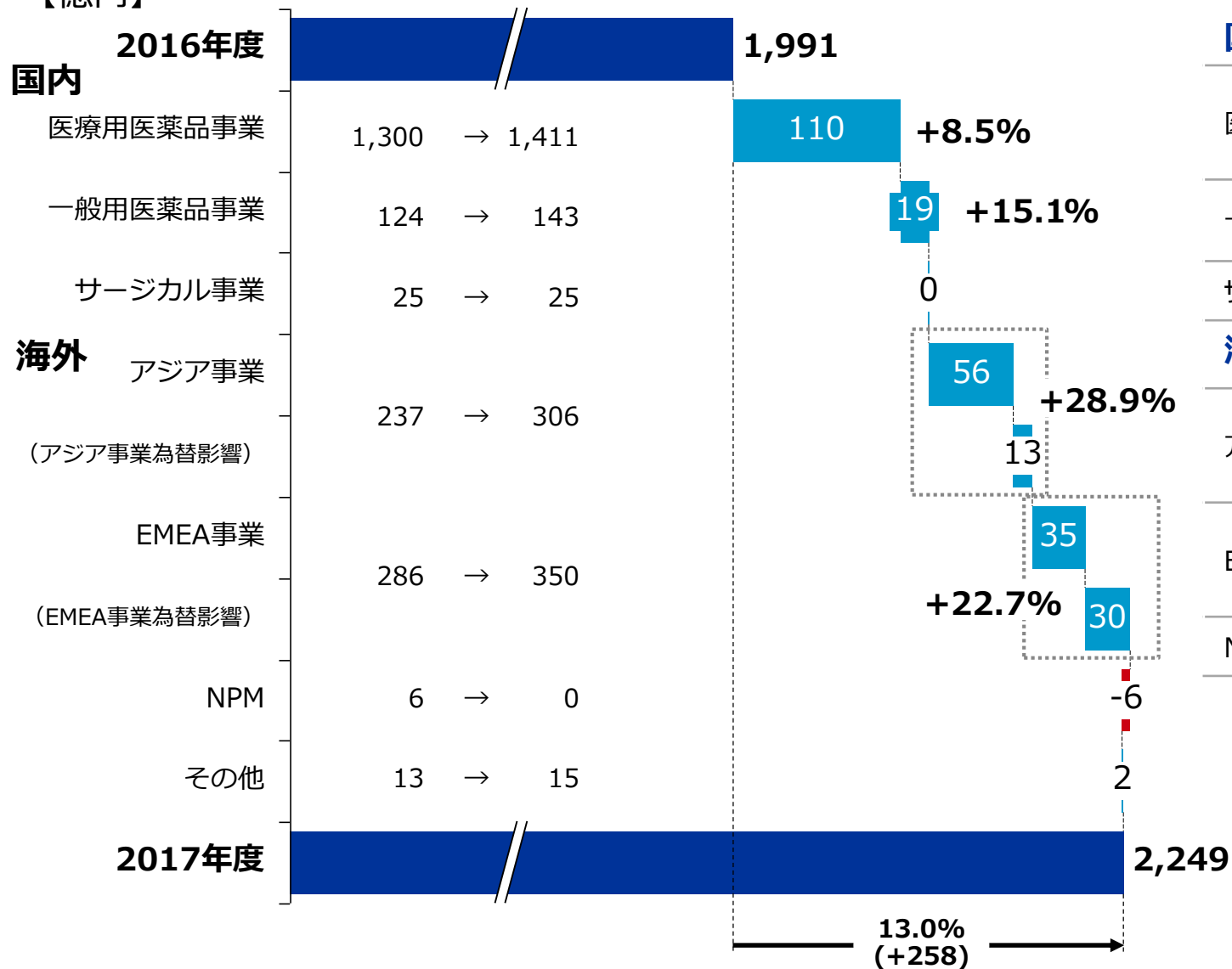
売上収益	国内、海外の全事業で好調に推移、2桁の増収。	
	2,249億円 対前年：+13.0% 予想達成率100.4%	
営業利益	販管費・研究開発費の増加を増収割合内に抑え、2桁の増益。	
	・コアベース：454億円 対前年：+14.3% 予想達成率103.1%	・フルベース：387億円 対前年：+19.1% 予想達成率103.5%
	販管費：688億円 16年度実績：617億円 17年度予想：690億円	
	研究開発費：244億円 16年度実績：228億円 17年度予想：250億円	

（要約PLはAppendixをご参照ください。）

2017年度通期 売上収益の推移

～国内・海外の各事業が順調に伸長

【億円】



国内事業

医療用医薬品	アイリーア*1 (+14.1%)、アレジオン (+37.7%)、ジクアス (+16.4%) など新製品を中心に伸長。全体では+8.5%の増収。
一般用医薬品	インバウンド需要に加えて、新製品・販促企画による国内需要取込も合わせ、+15.1%の伸長。
サージカル事業	医薬品事業と連携した営業活動を継続。

海外事業

アジア事業	域内の各市場で順調に推移（中国→+32.2%、韓国→+24.0%、アセアン→+27.9%）。全体では+28.9%の成長。（円建て）
EMEA事業	域内主要国にて、前年に引き続いて順調に伸長（イタリア→+31.9%、ドイツ→+10.4%、フランス→+9.7%、ロシア→+22.8%）し、全体では+22.7%の成長。（円建て）
NPM*2	MSD社からの権利移管がほぼ完了したことに伴い、受領なし。

	2016年度	2017年度
USD	JPY 108.64	JPY 110.94
EUR	JPY 118.96	JPY 129.92
CNY	JPY 16.14	JPY 16.84

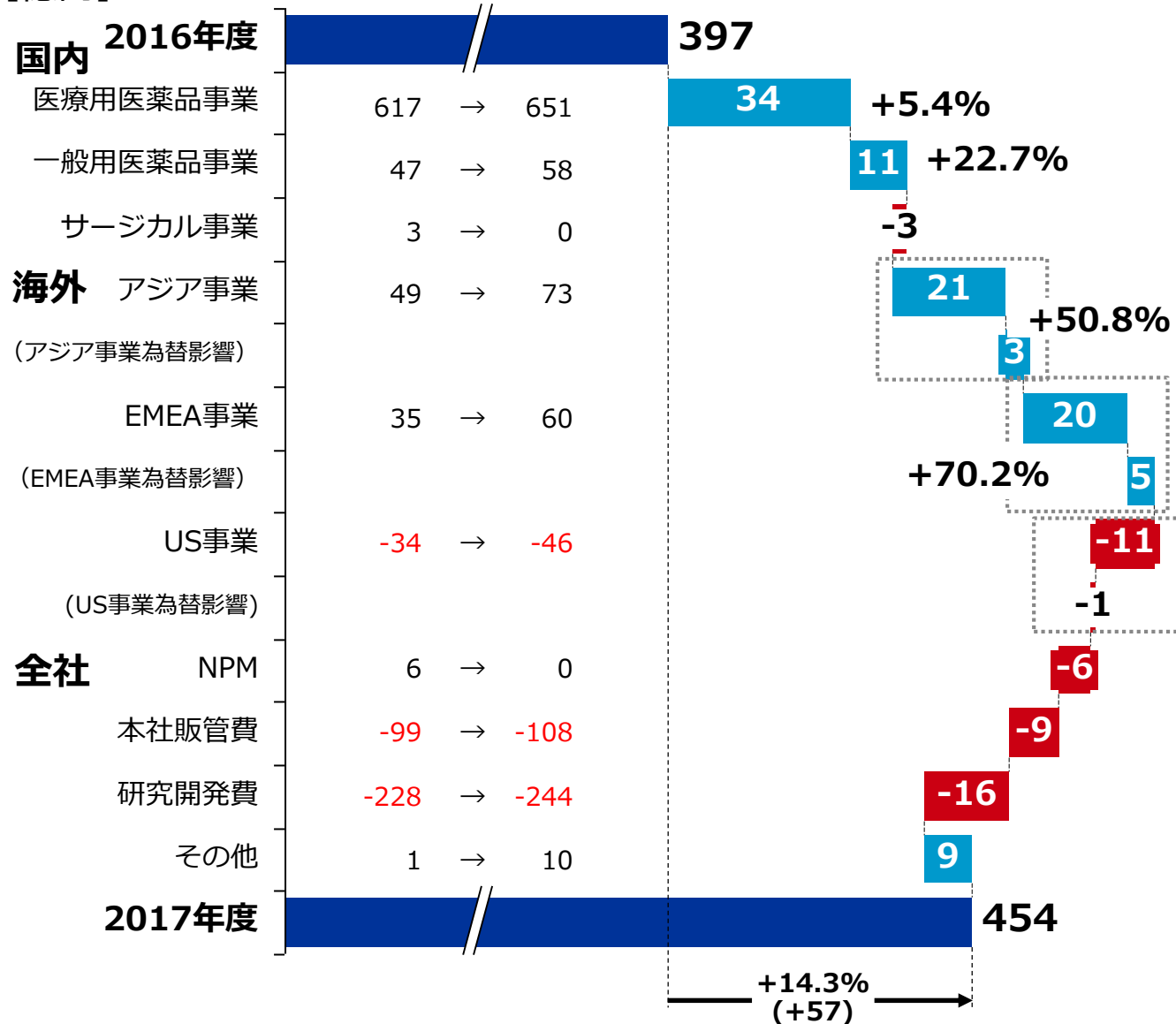
アイリーア*1：製造販売元であるバイエル薬品（株）とのコ・プロモーション製品

NPM*2：Net Profit Margin（販売承認の移管が未完の製品で、MSD社に販売を委託しているものについての収入）

2017年度通期 コア営業利益推移

～国内事業・海外事業ともに成長を牽引

【億円】



国内事業

医療用医薬品

一過性要因による前期の原価低減、今期のプロダクトミックスの影響はあるも、新製品を中心とした売上伸長により、+5.4%の増益。

一般用医薬品

売上成長に応じた利益の伸長。+22.7%の増益。

海外事業

アジア事業

売上成長と費用コントロールにより、大きく利益が伸長。
(アジア→+50.8%、EMEA→+70.2%)

EMEA事業

US事業

InnFocus社Admin費用やUS市場参入に向けた準備費用により増加するも、DE-109関連費用は1月以降凍結し、対予算では75%に抑制。

研究開発費

パイプラインの進展（DE-114A、126、128）により増加するも、費用投下の最適化を図り、期首予算内に抑える。

	2016年度	2017年度
USD	JPY 108.64	JPY 110.94
EUR	JPY 118.96	JPY 129.92
CNY	JPY 16.14	JPY 16.84

2014-2017年度 中期経営計画 を終えて



2014-2017年度 中期経営計画

実績

製品創製

- 承認、上市 ⇒ Tapcom, Ikervis
- 開発 ⇒ DE-109、117の申請、122の進展
- 新製品導入・獲得 ⇒ DE-126、128

事業展開

- MSD製品買収によるグローバルでの成長加速
 - 抗リウマチ薬事業譲渡による眼科へのフォーカス
 - 新製品による製品構成の強化
 - インバウンド需要による一般用医薬品事業の成長
 - US市場参入に本格的に着手
-
- アジア、EMEA各国での自社・MSD製品による収益強化
 - :アジア⇒115億円(FY13)→306億円(FY17)、2.7倍
 - :EMEA⇒120億円(FY13)→350億円(FY17)、2.9倍
 - 国内医薬新製品比率向上⇒44% (FY13)→75% (FY17)
 - 国内OTC新製品・インバウンド需要による事業拡大
 - :51億円(FY13)→143億円(FY17)、2.8倍

組織・人材

- 新人事制度導入
- 次世代を担う人材への研修実施、育成の推進

(要約PLはAppendixをご参照ください。)

2018年度 通期業績予想について

2018年度通期業績予想

～中計初年度としてVision2020の実現に向けた「成長」と「効率」に取り組む

売上収益	国内医療用医薬品事業における薬価引き下げの影響を、海外での成長によってリカバー	
	2,370億円 対2017年度：+5.4%	
営業利益	<ul style="list-style-type: none"> ・（販管費）グローバルでの成長を支えるための組織・体制強化のための投資 ・（研究開発費）2020年以降の成長を導くための戦略投資 	
	コアベース：480億円	フルベース：407億円
	対2017年度：+5.8%	対2017年度：+5.2%
	販管費：730億円 2017年度（688億円） 研究開発費：250億円 2017年度（244億円）	

（要約PLはAppendixをご参照ください。）

2018年度業績予想

～国内医薬品事業で成長を維持、海外事業がグループのさらなる成長を牽引

【億円】

【売上収益】

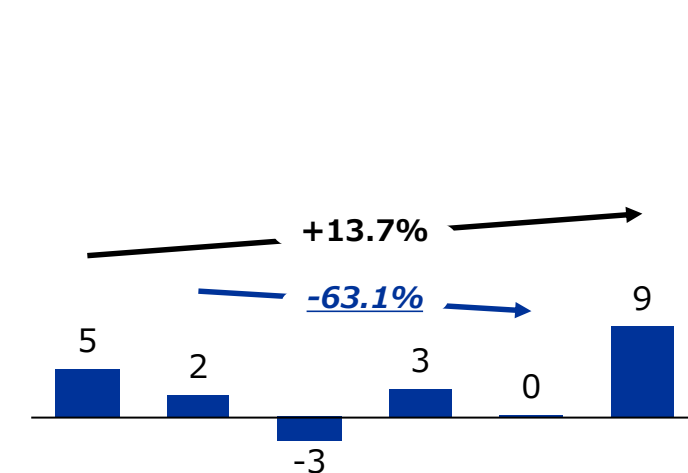
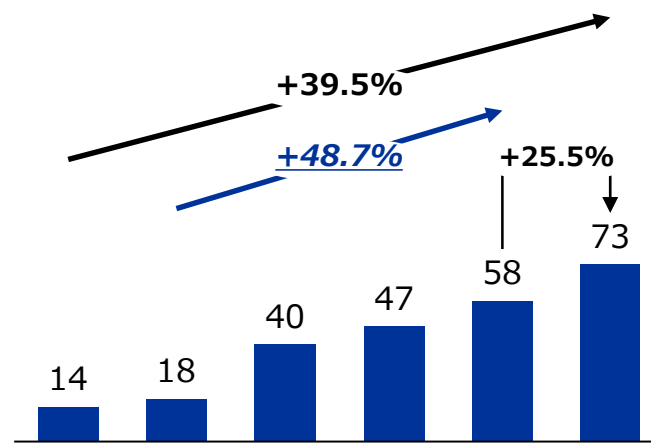
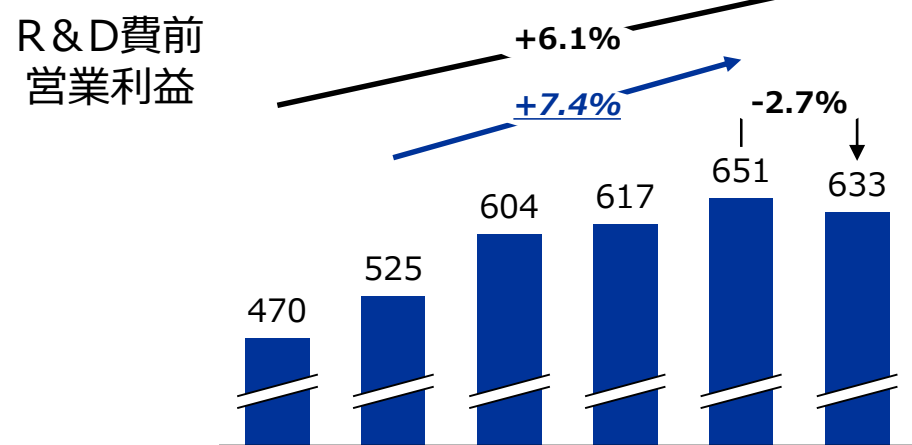
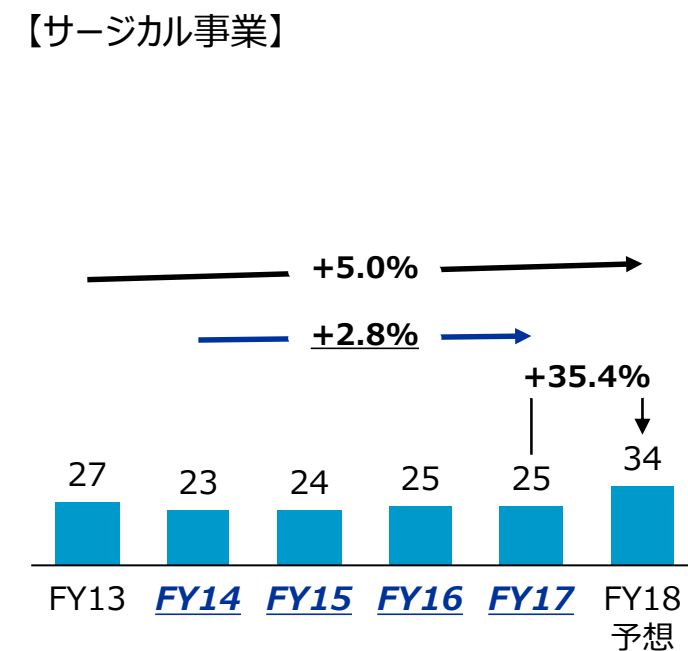
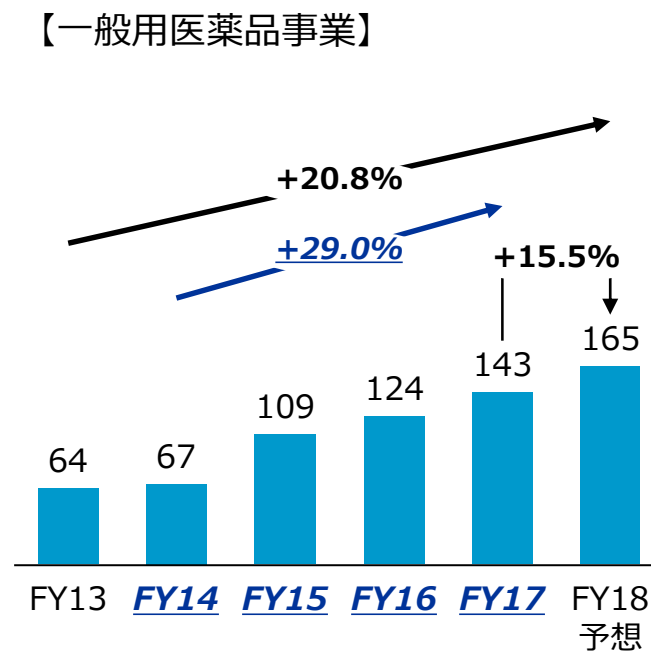
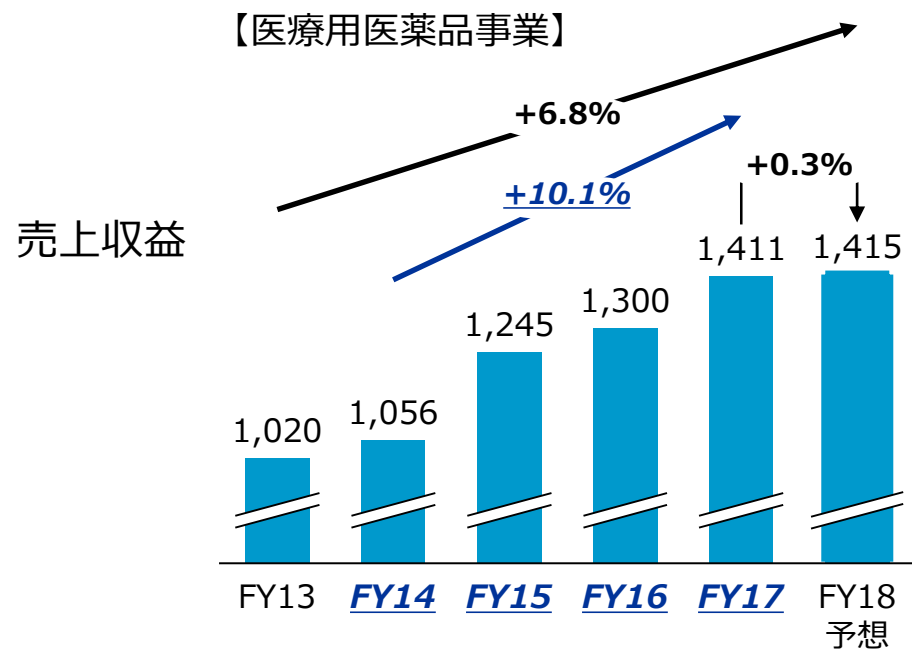
【コア営業利益】



	2017年度	2018年度予想
USD	JPY 110.94	JPY 110.00
EUR	JPY 129.92	JPY 130.00
CNY	JPY 16.84	JPY 17.00

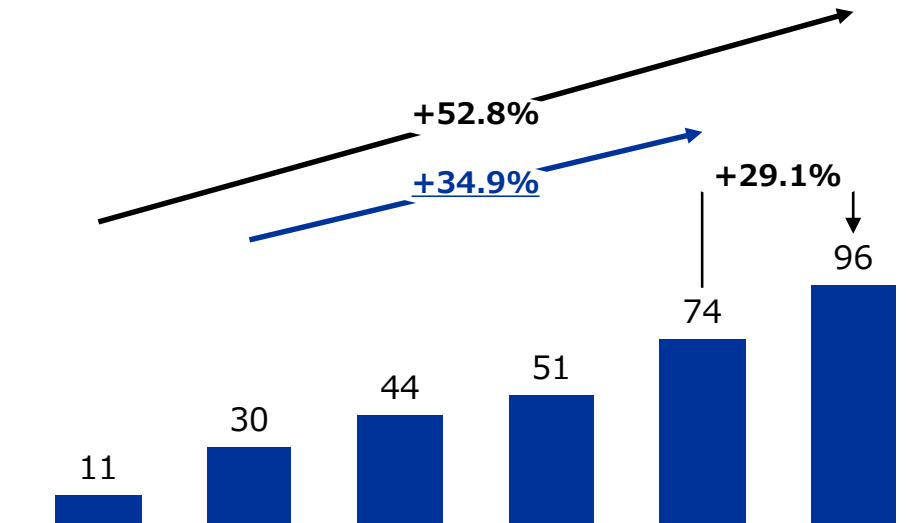
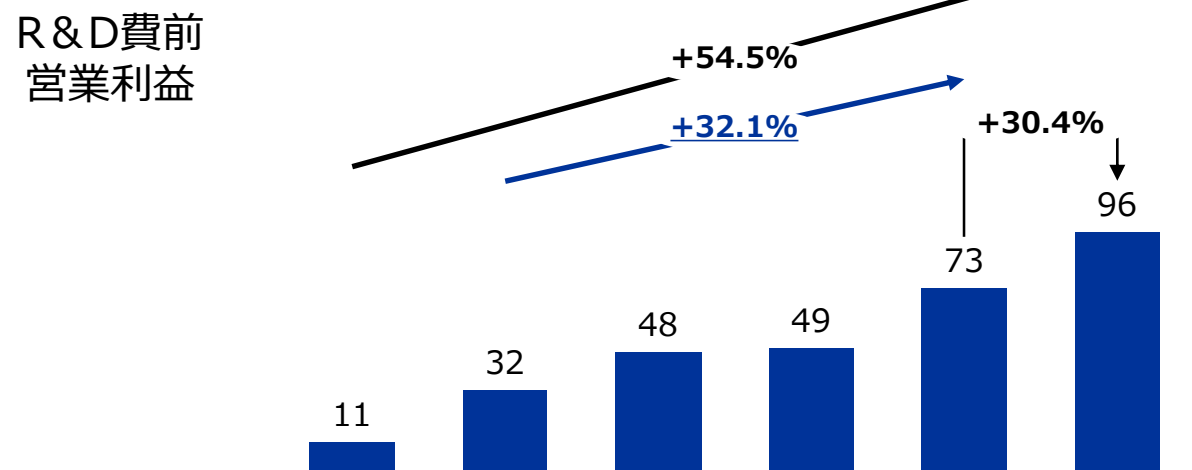
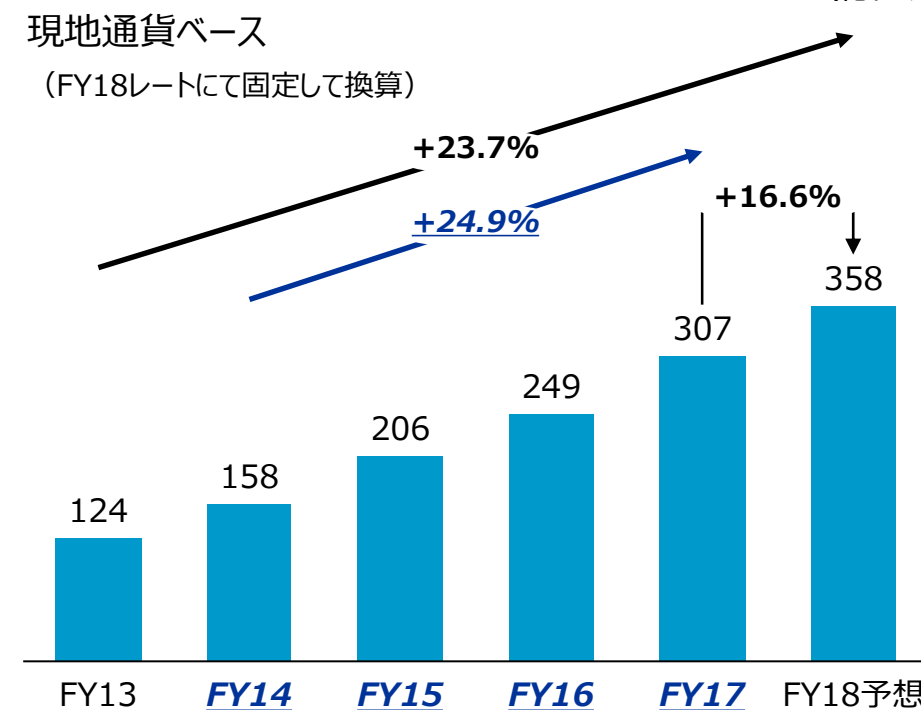
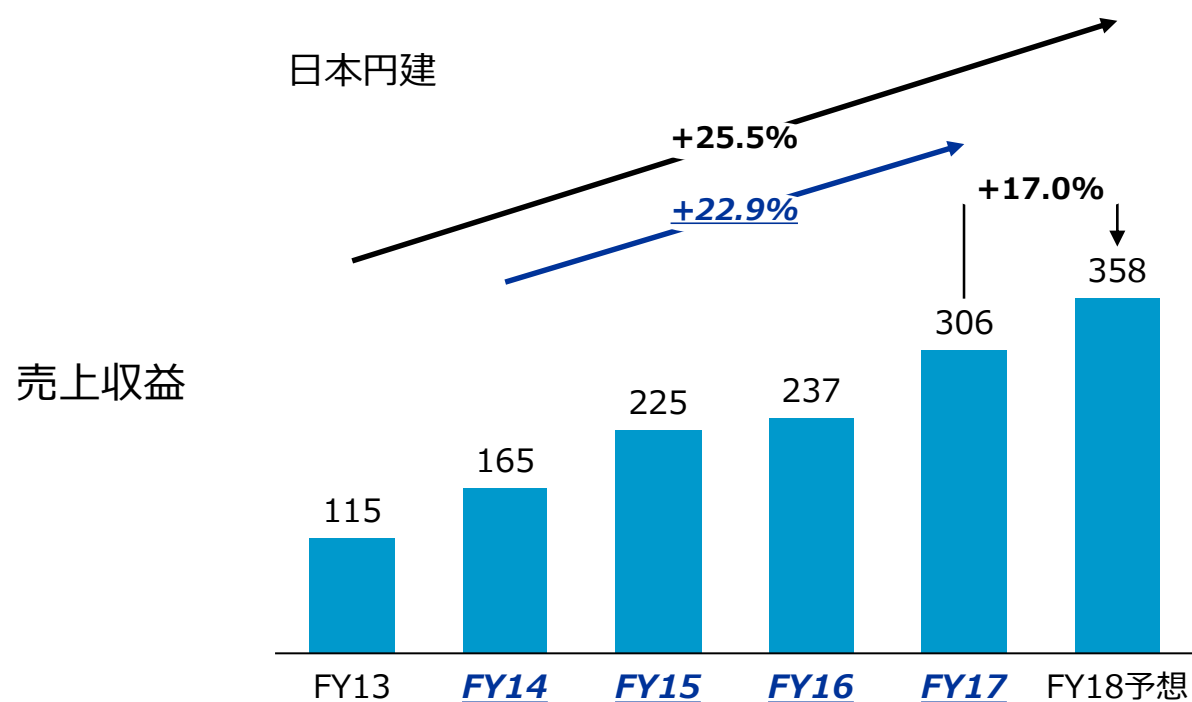
事業別実績推移 (国内)

(億円、CAGR:%)



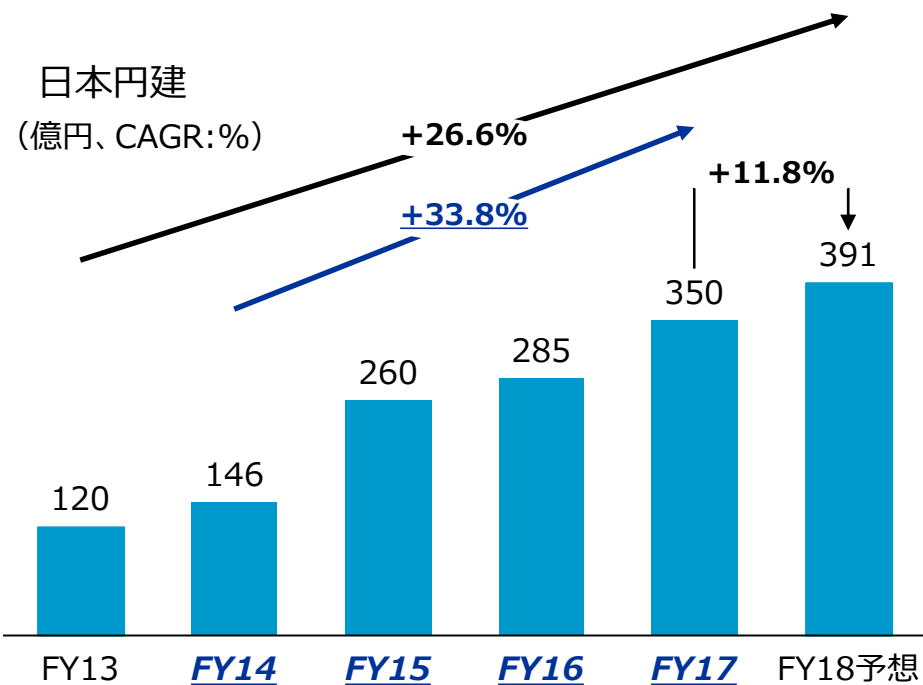
事業別実績推移 (アジア事業)

(億円、CAGR:%)

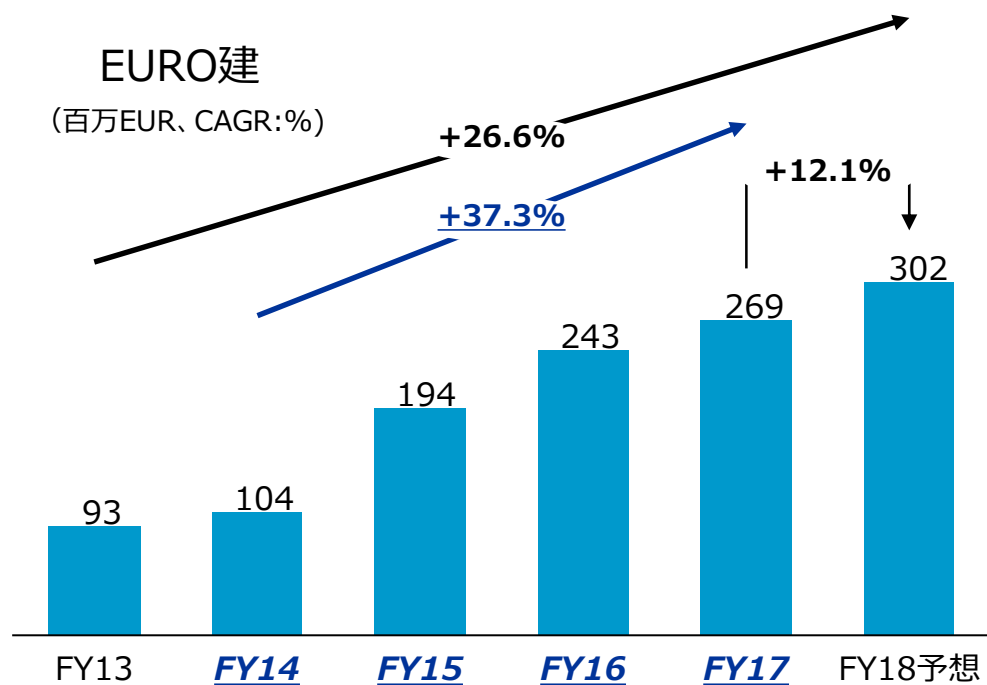


事業別実績推移 (EMEA事業)

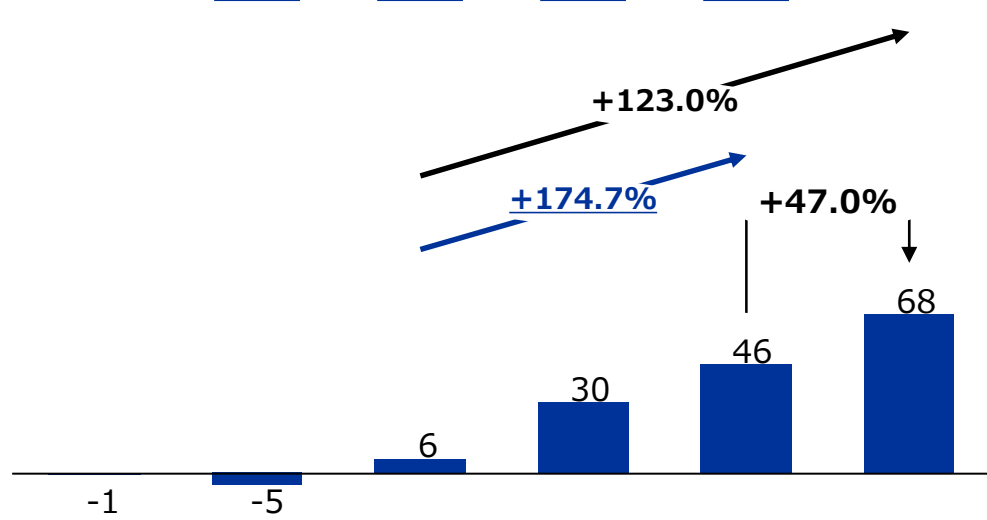
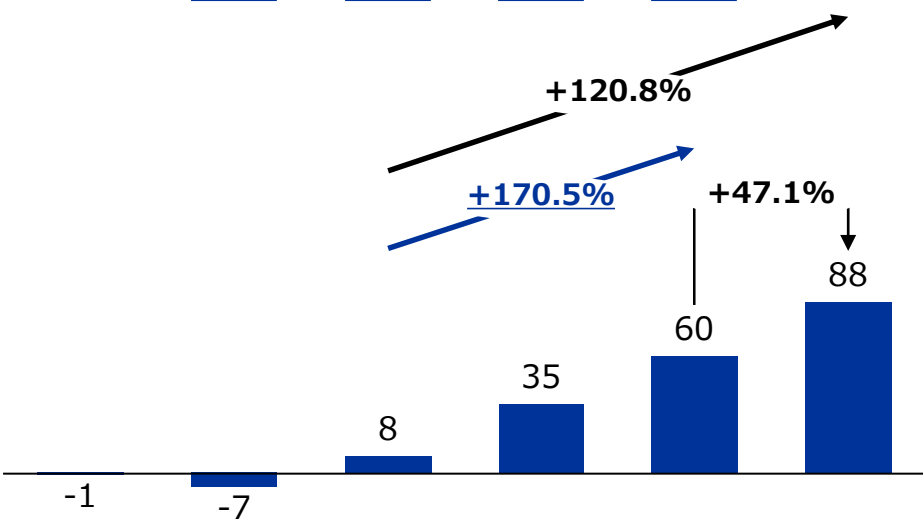
売上収益



EURO建
(百万EUR、CAGR:%)



R&D費前
営業利益



2017年度配当および2018年度配当予想

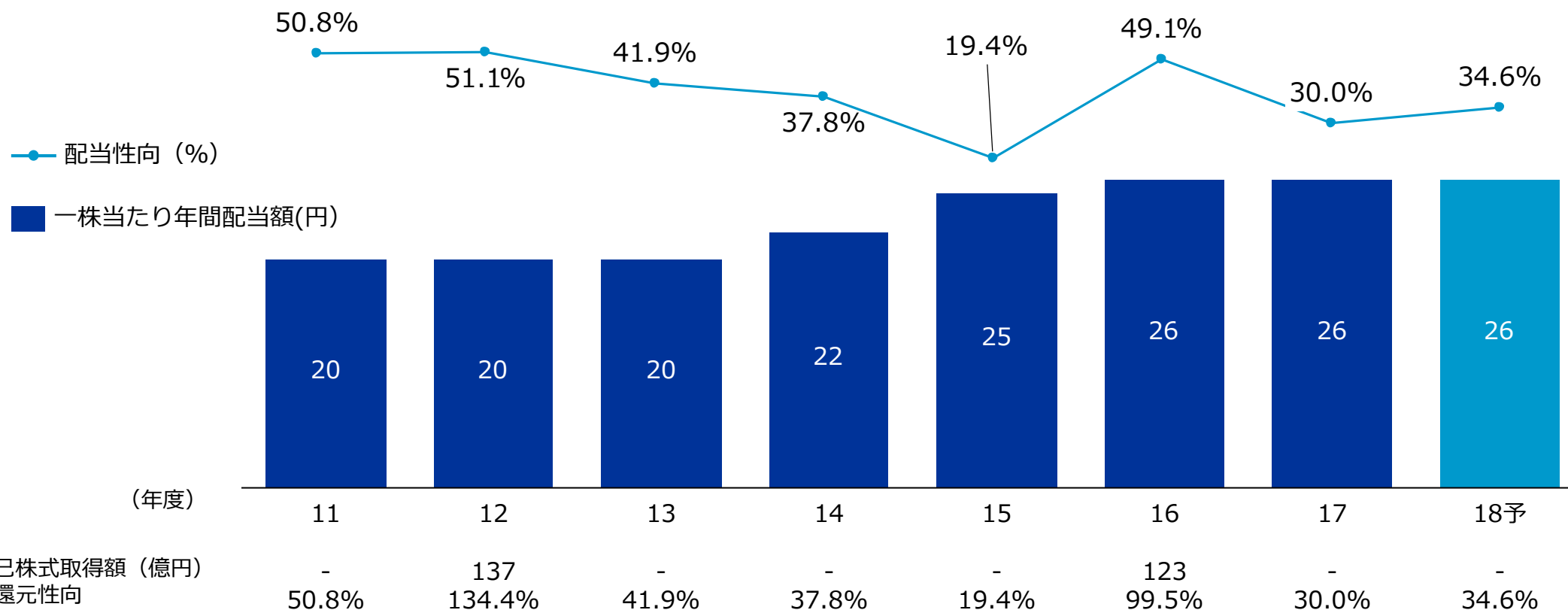
■ 年間配当

- 2017年度通期：26円
(第2四半期末：13円)

- 2018年度通期予想：26円

■ 安定性、持続性を重視した株主還元

- 2020年以降の成長に向けた中長期的な戦略投資
→この2つのバランスのもとに、配当をはじめとする株主還元策を実施。



*2015年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の割合で分割実施。2014年度以前の配当額は、当該株式分割の株数を基に算出

**2013年度まではJ-GAAP、2014年度以降はIFRSを基準に算出

研究開発の現状

2018年5月



常務執行役員

チーフ・サイエンティフィック・オフィサー (CSO)

兼 研究開発本部長

ナヴィード・シャムズ

パイプライン/製品の開発状況①

	効能・効果	開発地域	開発状況
DE-117 EP2受容体作動薬	緑内障・ 高眼圧症	米国	現状：P2
		日本	現状：申請中 計画：2018年度下半期承認
		アジア	現状：P3 計画：2018年度下期 P3完了
DE-126 FP/EP3受容体 デュアル作動薬	緑内障・ 高眼圧症	米国	現状：P2b
		日本	計画：2018年1-6月 P2b完了
DE-128 <i>InnFocus MicroShunt</i>	緑内障	米国	現状：P2/3 計画：2018-2019年 P2/3 完了、2020-2021年 上市
		欧州	現状：CEマーク取得
DE-109 シロリムス 硝子体内注射剤	ぶどう膜炎	米国	現状：P3、追加臨床試験計画中
		日本	現状：P3
		欧州	現状：P3
		アジア	現状：申請中
DE-122 抗エンドグリン抗体	滲出型 加齢黄斑変性	米国	現状：P2a 計画：2019年1-6月 P2a完了

パイプライン/製品の開発状況②

	効能・効果	開発地域	開発状況
DE-089 ジクアス点眼液	ドライアイ	中国	現状：承認済み 計画：2018年度上市
DE-076B Cyclokate / Ikervis シクロスポリン	ドライアイに伴う重度の 角膜炎	アジア 米国	現状：上市 現状：P2
DE-076C Vekacia / Verkazia シクロスポリン	春季カタル	欧州	現状：申請中（CHMPより承認勧告取得済み）
DE-114A エピナスチン塩酸塩 (高用量)	アレルギー性 結膜炎	日本	現状：P3（ピボタル試験(CAC study) で主要評価項目達成) 計画：2018年度上期P3完了
DE-127 アトロピン硫酸塩	近視	アジア	現状：P2 計画：2019年度下期P2完了

2018年4月、カナダ保健省よりDE-076B (Cyclokate / Ikervis) に対する非承認通知を受領

Appendix

2016年度、2017年度、2018年度 要約PL

(億円)	2016年度		2017年度			2018年度予想	
	通期累計 遡及修正後	通期累計	対前期 増減率	通期 業績予想	対業績予 想比率	業績予想	対2017年度 増減率
(コアベース)							
売上収益	1,991	2,249	+13.0%	2,240	100.4%	2,370	+5.4%
売上原価	-750	-864	15.2%	-860	100.4%	-910	5.4%
販管費	-617	-688	11.6%	-690	99.7%	-730	6.1%
研究開発費	-228	-244	7.1%	-250	97.6%	-250	2.5%
営業利益	397	454	+14.3%	440	103.1%	480	+5.8%
当期利益	291	335	+14.9%	312	107.2%	353	+5.5%
ROE	11.3%	12.4%	1.1pt			12.0%	-0.4pt
(フルベース)							
営業利益	325	387	+19.1%	374	103.5%	407	+5.2%
当期利益	217	353	+62.3%	320	110.2%	304	-13.8%
ROE	8.4%	13.0%	4.6pt			10.3%	-2.7pt
USD	JPY 108.64	JPY 110.94	-2.1%	JPY 110.00	-0.9%	JPY 110.00	0.85%
EUR	JPY 118.96	JPY 129.92	-9.2%	JPY 120.00	-8.3%	JPY 130.00	-0.06%
CNY	JPY 16.14	JPY 16.84	-4.3%	JPY 16.50	-2.1%	JPY 17.00	-0.94%

+:円高、-:円安

2017年度 純損益計算書の要約差異

(単位：億円)	2016年度 通期累計			2017年度 通期累計		
	※	実績	(対売上収 益比率)	実績	(対売上収 益比率)	対前期 増減率
売上収益	1,991	1,991		2,249		13.0%
売上原価	-750	-750	-37.7%	-864	-38.4%	15.2%
販売費及び一般管理費	-622	-622	-31.2%	-688	-30.6%	10.6%
研究開発費	-228	-228	-11.4%	-244	-10.8%	7.1%
製品に係る無形資産償却費	-64	-64	-3.2%	-67	-3.0%	5.1%
その他の収益	5	5	0.2%	4	0.2%	-10.9%
その他の費用	-7	-7	-0.4%	-4	-0.2%	-50.0%
営業利益(フルベース)	325	325	16.3%	387	17.2%	19.1%
金融収益	9	11	0.6%	10	0.4%	-9.2%
金融費用	-16	-35	-1.8%	-4	-0.2%	-87.7%
税引前当期利益	318	301	15.1%	393	17.5%	30.6%
法人所得税費用	-88	-83	-4.2%	-40	-1.8%	-52.0%
(負担税率)	27.6%	27.7%		10.2%		-17.5pt
当期利益(フルベース)	231	217	10.9%	353	15.7%	62.3%
コア営業利益	397	397	19.9%	454	20.2%	14.3%
コア当期利益	287	291	14.6%	335	14.9%	14.9%

・前期の一過性要因ならびに、今期のProduct Mixの変化による増加。

販売費及び一般管理費の増加内訳は以下のとおり

- ・国内医薬7億円、
- ・アジア事業32億円、EMEA事業17億円、US事業11億円
- ・全社間接部門9億円

・主として米国における法人税率の引下げの影響。

	2016年度第4四半期	2017年度第4四半期
USD	JPY 108.64	JPY 110.94
EUR	JPY 118.96	JPY 129.92
CNY	JPY 16.14	JPY 16.84

※2017年5月10日発表時点の数値。
今回発表の2016年度第4四半期の数値は、InnFocus社買収に係る取得価額配分の確定を受けて、遡及修正したものです。

中期経営計画振り返り（要約PL）

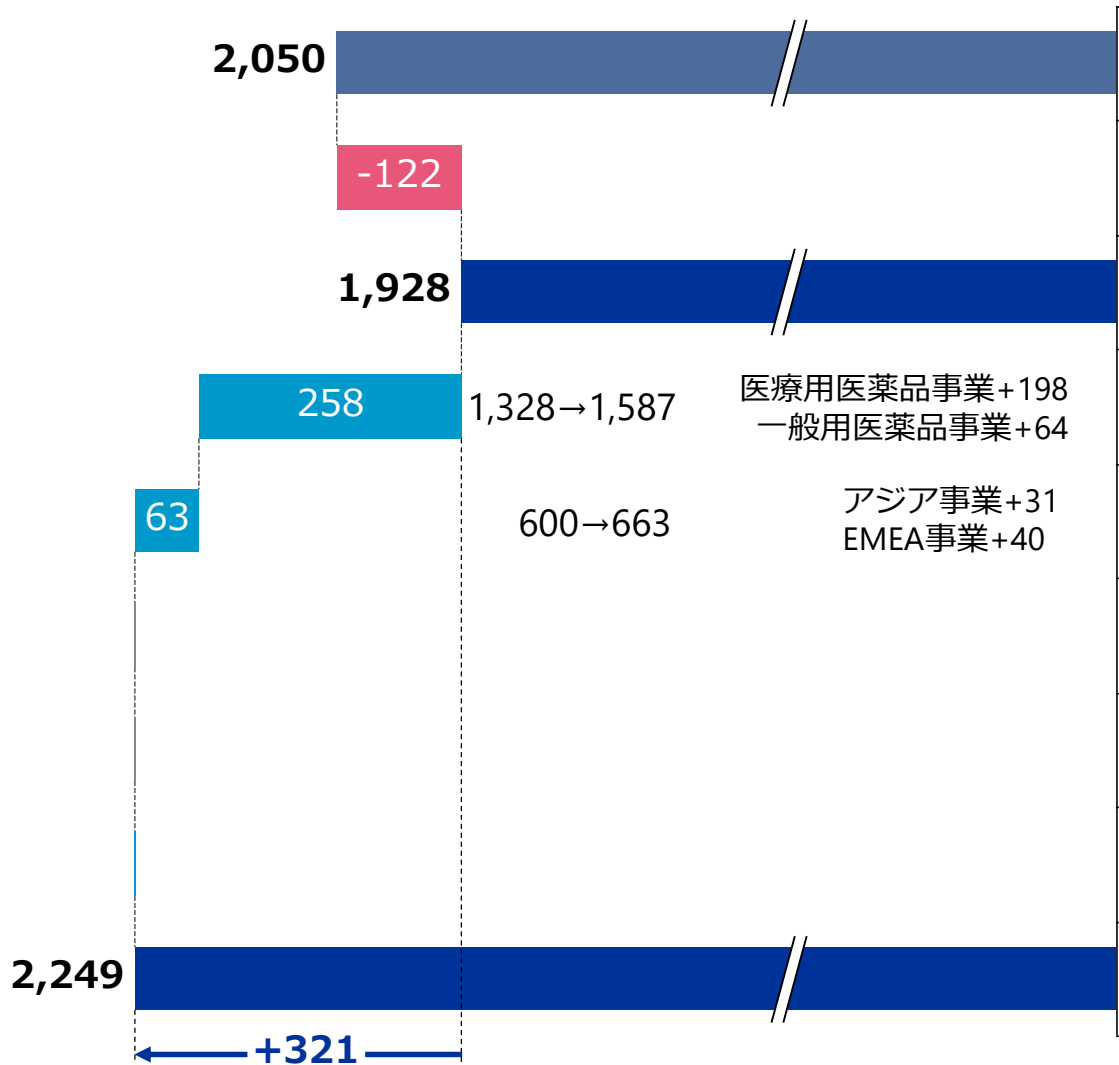
(億円)	2017年度			
	中計 目標数値	通期累計	対中計 差額 達成率	
(コアベース)				
売上収益	2,050	2,249	199	109.7%
国内事業	1,450	1,587	137	109.4%
海外事業	600	663	63	110.5%
うちアジア事業	275	306	31	111.2%
うちEMEA事業	310	350	40	112.9%
研究開発費	-210	-244	-34	116.2%
営業利益	515	454	-61	88.1%
当期利益	350	335	-15	95.6%
(フルベース)				
営業利益	450	387	-63	86.0%
当期利益	310	353	43	113.7%
ROE	13.0%	13.0%	0.0pt	
USD	JPY 103.00	JPY 110.94	-7.7%	
EUR	JPY 141.00	JPY 129.92	7.9%	
CNY	JPY 16.90	JPY 16.84	0.4%	

+:円高、-:円安

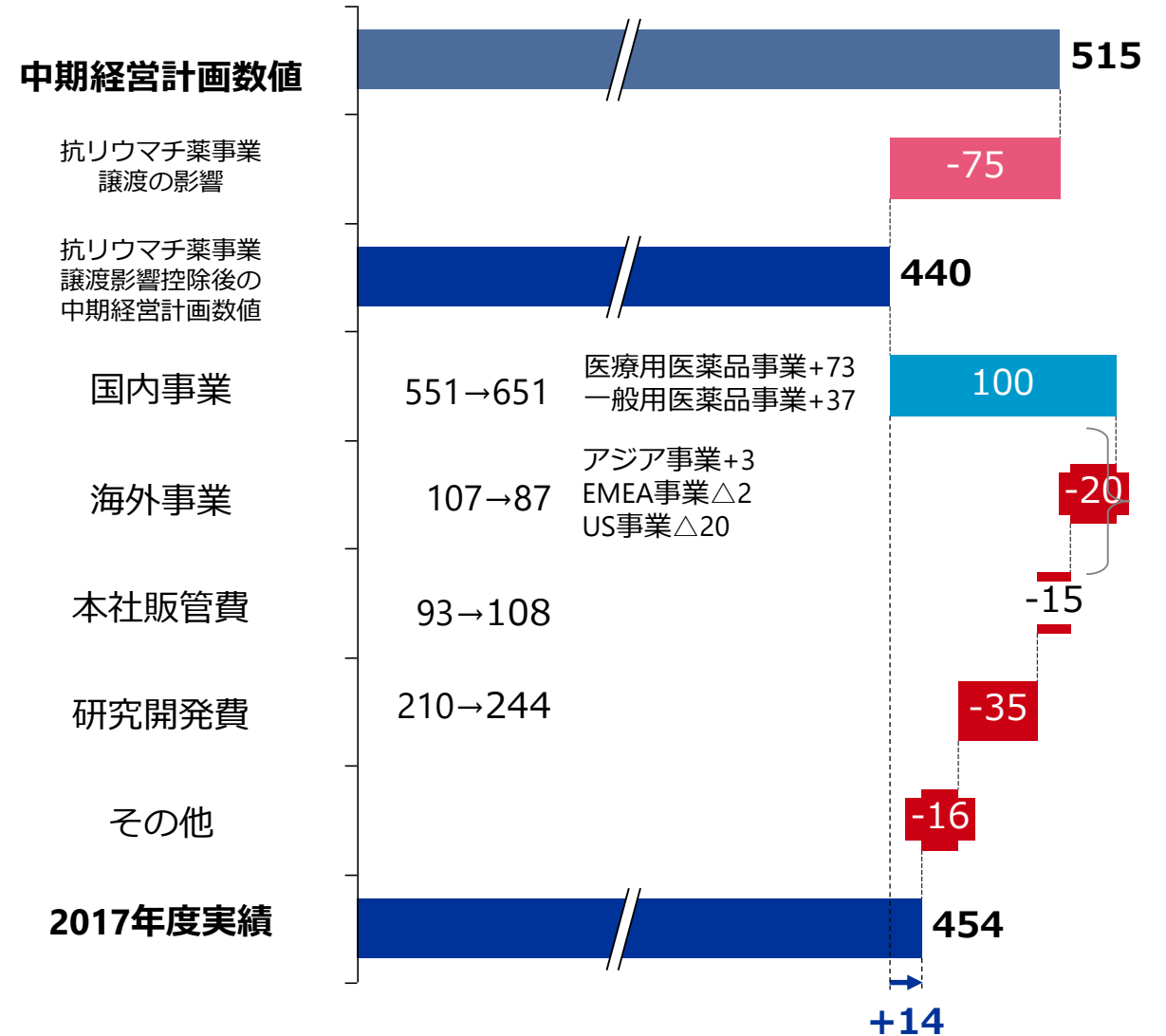
2017年度通期 対中期経営計画 差異要因

【億円】

【売上収益】



【コア営業利益】



2017年度第4四半期末 財政状態の推移

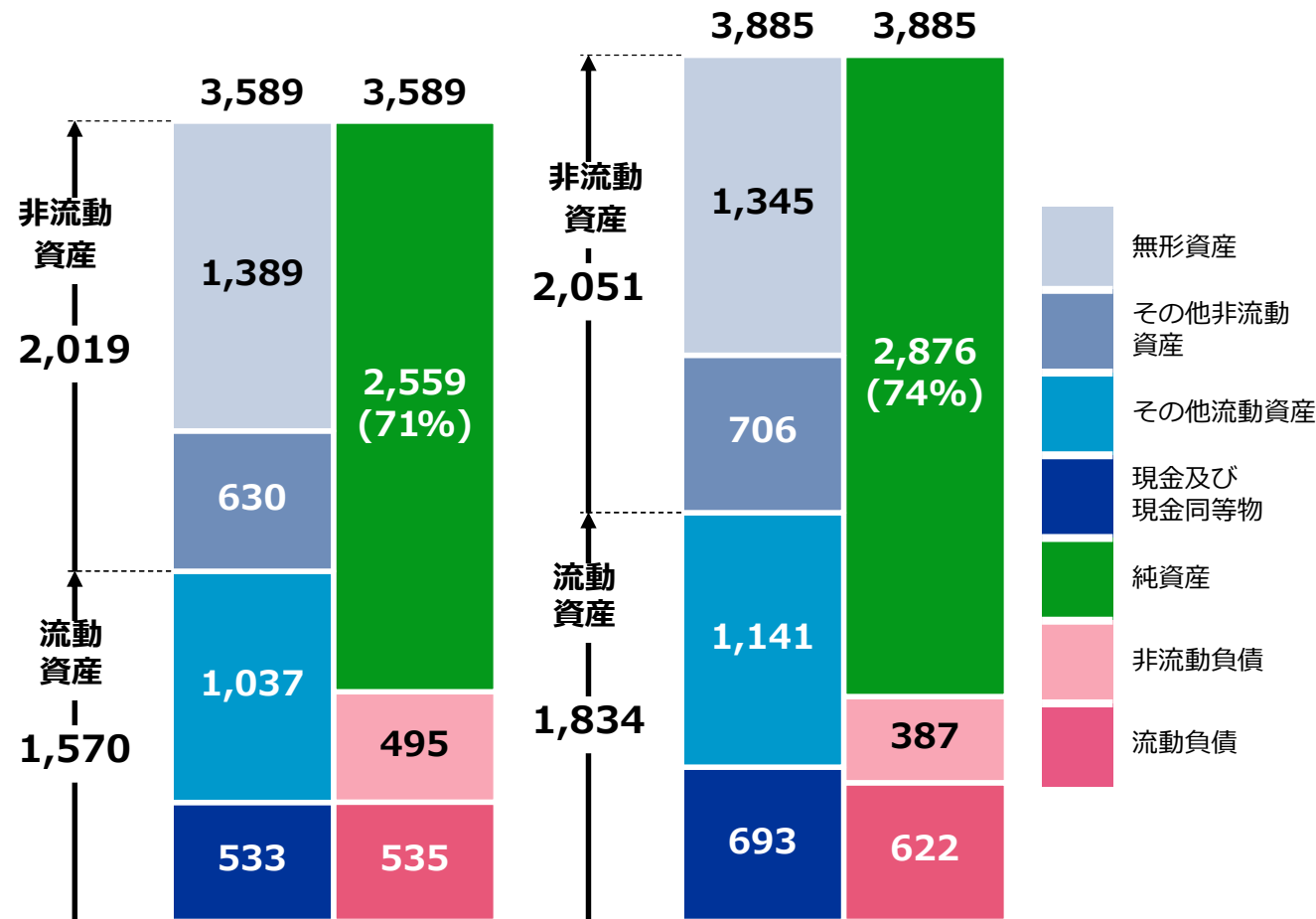
2016年度末

(PPA調整後)

2017年度末

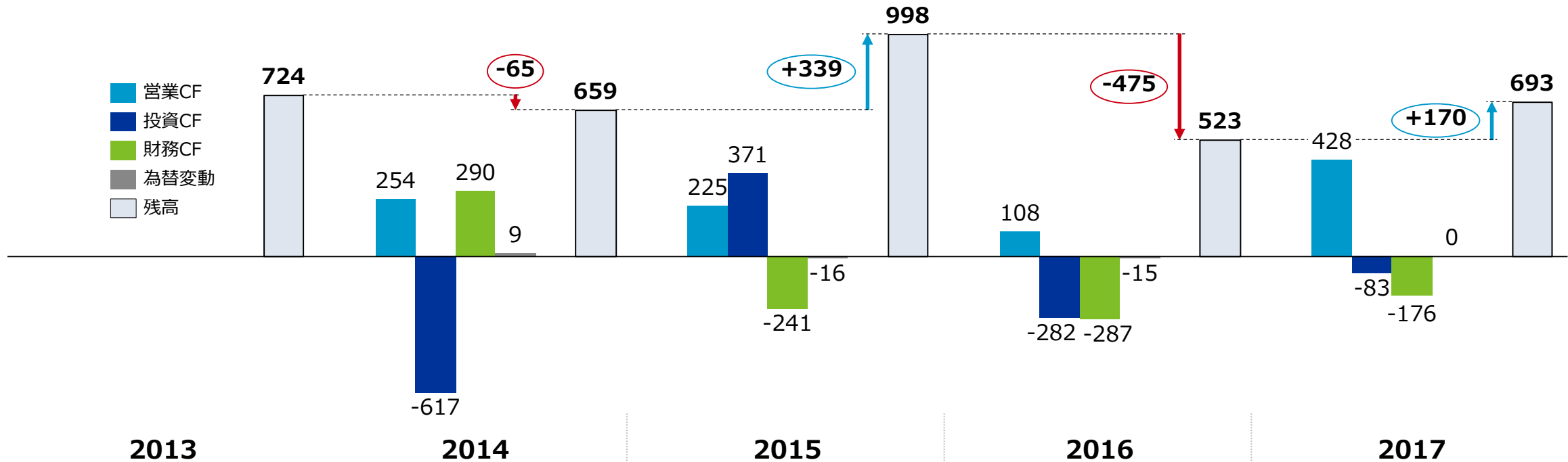
売上の増加により営業債権、現金及び現金同等物が増加。

(億円)



	2016年度末			2017年度末	増減額
	PPA調整前	PPA調整後			
総資産	3,228	3,589	361	3,885	296
非流動資産	1,658	2,019	361	2,051	32
有形固定資産	286	286	-	297	12
無形資産	1,028	1,389	361	1,345	-44
金融資産	299	299	-	358	59
その他	45	45	-	51	6
流動資産	1,570	1,570	-	1,834	264
棚卸資産	285	285	-	306	21
営業債権	710	710	-	787	77
現金及び現金同等物	533	533	-	693	160
その他	42	42	-	48	6
純資産	2,539	2,559	20	2,876	316
非流動負債	155	495	340	387	-108
長期借入金	76	76	-	35	-41
長期未払金	-	187	187	177	-10
繰延税金負債	26	180	154	129	-51
その他	53	53	-	46	-6
流動負債	534	535	0	622	87
営業債務	239	239	-	297	58
金融負債	176	176	0	144	-32
未払法人所得税等	33	33	-	77	44
その他	86	86	-	104	18

キャッシュ・フローの推移



・米メルク社製品買収により投資活動による支出が増加。
 ・同買収に係る借入により財務活動による収入が増加。

・年金拠出による退職給付負債の減少により営業活動による支出が増加。(営業CF対前年比減少)
 ・抗リウマチ薬事業譲渡により投資活動による収入が増加。
 ・長期借入金の一部返済により財務活動による支出が増加。

・2015年度の抗リウマチ薬事業譲渡益に係る法人税等の支払いにより営業活動による支出が増加。(営業CF対前年比減少)
 ・InnFocus社買収により投資活動による支出の増加。
 ・自己株式の取得ならびに長期借入金の返済により財務活動による支出が増加。

・税引後当期純利益の増加による営業CFの増加。
 ・2016年度に発生した金額の大きな支出(事業譲渡益に係る法人税支払い、買収、自己株式の取得)の影響がないことにより各CFが増加。

セグメント別売上

売上セグメント別収益

(単位：億円)	日本			海外			合計		
	2017年度 実績	対前期 増減率	2018年度 予想	2017年度 実績	対前期 増減率	2018年度 予想	2017年度 実績	対前期 増減率	2018年度 予想
医薬品事業	1,587	9.1%	1,613	663	23.4%	757	2,249	13.0%	2,370
医療用医薬品	1,411	8.5%	1,398	659	23.3%	750	2,070	12.8%	2,147
眼科薬	1,404	8.3%	1,394	655	25.2%	741	2,059	13.2%	2,136
その他医薬品	7	59.1%	3	4	-62.3%	8	11	-31.1%	11
一般用医薬品	143	15.1%	161	3	121.8%	4	146	16.3%	165
医療機器	25	0.5%	27	1	153.6%	2	26	1.8%	30
その他	8	87.4%	27	0	-69.8%	2	8	48.6%	28
売上比率	70.5%			29.5%		31.9%			

設備投資額/減価償却費

(単位：億円)	2016年度	2017年度		2018年度	
	実績	実績	対前期 増減率	予想	対前期 増減率
設備投資額	52	54	4.4%	75	37.4%
減価償却費及び償却費*	35	42	19.7%	43	2.5%
製品に係る無形資産償却費	64	67	5.1%	69	2.8%
メルク無形資産償却費	54	56	4.4%	58	3.9%
Ikervis無形資産償却費	7	7	9.2%	7	0.6%

* 製品に係る無形資産償却費および長期前払費用の償却費は除く

国内医療用眼科薬 市場概況

単位 億円	2016年度						2017年度					
	参天販売製品*		市場		参天販売製品* シェア	順位	参天販売製品*		市場		参天販売製品* シェア	順位
	金額	対前期増減率	金額	対前期増減率			金額	対前期増減率	金額	対前期増減率		
Total	1,573	3.0%	3,455	-0.6%	45.5%	No.1	1,679	6.7%	3,633	5.1%	46.2%	No.1
抗緑内障剤	368	0.1%	1,143	1.5%	32.2%	No.1	359	-2.4%	1,149	0.5%	31.2%	No.1
抗VEGF薬	539	10.2%	745	-0.0%	72.4%	No.1	612	13.5%	853	14.5%	71.8%	No.1
角膜疾患治療剤	285	-2.9%	455	-1.8%	62.7%	No.1	290	1.7%	466	2.5%	62.2%	No.1
抗アレルギー剤	162	24.8%	377	5.5%	42.9%	No.1	205	26.7%	429	13.5%	47.9%	No.1
抗菌点眼剤	64	-21.5%	146	-11.2%	44.1%	No.1	56	-13.4%	139	-4.7%	40.0%	No.1

*製造販売元であるバイエル薬品（株）とのコ・プロモーション製品を含む（抗VEGF薬「アイリニア」）

出典：Copyright © 2018 IQVIA.

IMS-JPM 2016-18を基に参天分析 無断転載禁止

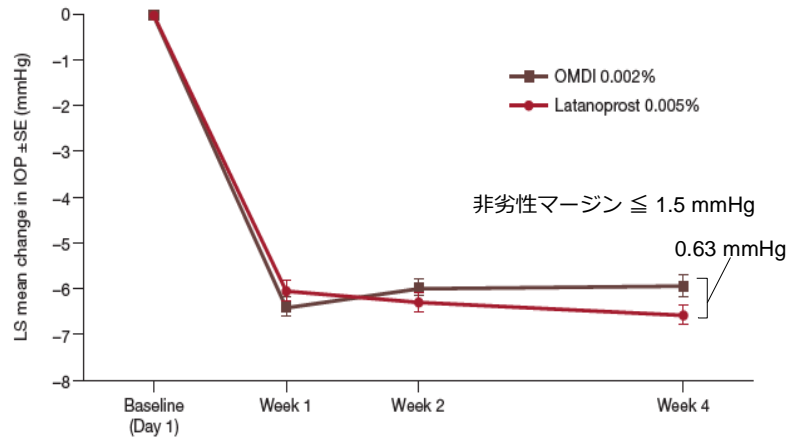
DE-117: 新規の作用機序となるEP2受容体作動薬

- 既存プロスタグランジン誘導体とは異なる作用点
- 2つの流出路からの房水流出を促進

AYAME

- OMDI点眼液0.002% による眼圧下降作用は、ラタノプロスト0.005%の作用と比べ非劣性

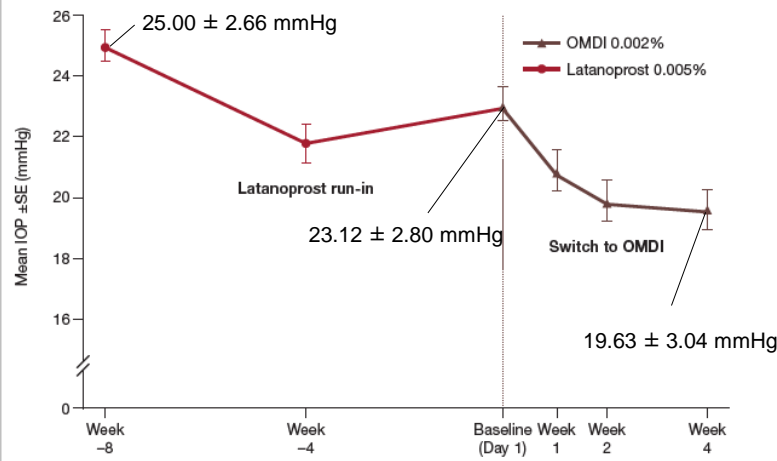
-OMDI点眼液0.002% とラタノプロスト0.005% の、投与後4週におけるベースラインからの日中眼圧平均差は0.63 mmHg (95% CI: 0.01, 1.26 mmHg) であり、ラタノプロスト優越
 -差は統計学的に有意だが (P=0.0477)、臨床的に有意とは考えられない



FUJI

- OMDI点眼液0.002%は、ラタノプロスト0.005%に対する治療抵抗性の原発性開放隅角緑内障および高眼圧症患者において、臨床的に有意な眼圧下降作用を示した

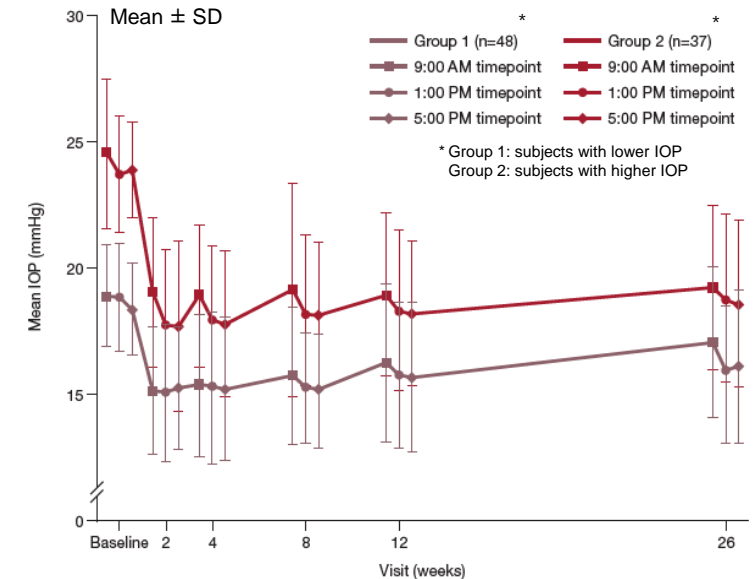
-投与後4週における日中眼圧の平均 (標準偏差) は、19.63 (3.04) mmHgであり、ベースライン (Day 1) からの変化量は平均値 (標準偏差) で-2.99 (2.18) mmHg (95% CI: -3.87, -2.11; P<0.0001)



RENGE

- OMDI点眼液0.002%は、26週間にわたり臨床的に有意な眼圧下降作用と忍容性を示した

-いずれの群においても、虹彩、眼瞼の色素沈着もしくは睫毛の異常増殖の有害事象は認められなかった

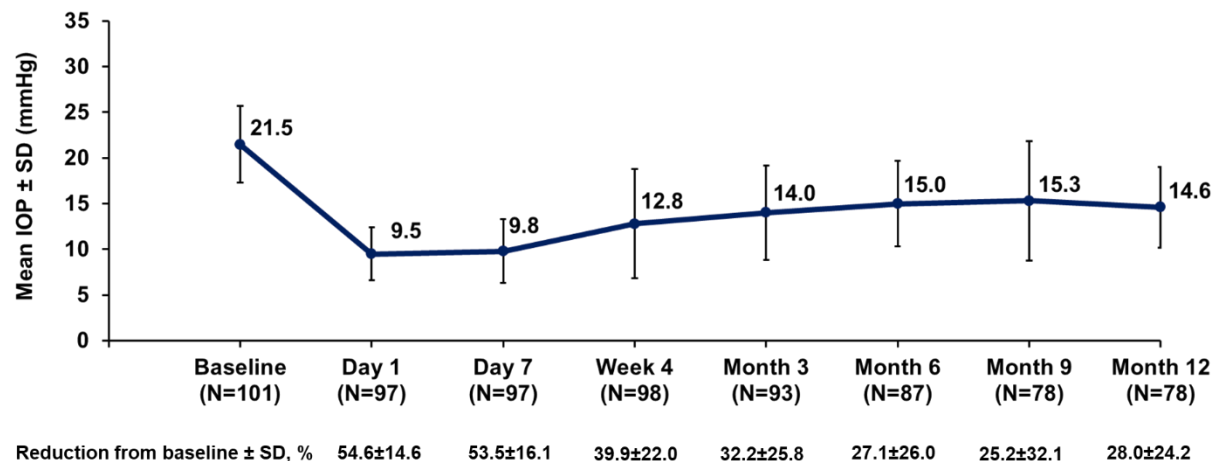


DE-128:

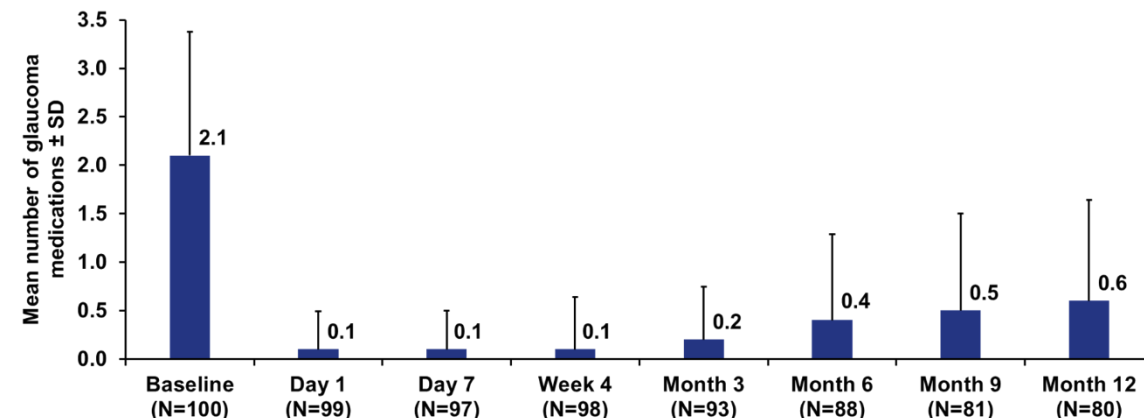
低侵襲手術向けデザイン、画期的な生体不活性素材の緑内障用デバイス

- *InnFocus MicroShunt*とTrabeculectomyを比較するピボタル試験 (INN-005) を実施中
- INN-007試験(NCT02177123)の中間解析において、*InnFocus MicroShunt*は許容される安全性および忍容性プロファイルを有し、眼圧および緑内障治療薬数の低減を確認

12ヶ月後までの眼圧



患者一人あたりの緑内障治療薬数



将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward looking statements)を含みます。これら見通しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。従って、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。
- 日本ならびにその他各国政府による医療保険制度や薬価等の医療行政に関する規制が変更された場合や、金利、為替の変動により、業績や財政状態に影響を受ける可能性があります。
- 新薬の研究開発から承認・発売まで非常に長期間を要し、開発中止、承認申請後の不許可など不確実性を多く含みます。新製品に関わる見通しは、他社との開発・販売提携等を前提とするものが含まれており、こうした提携の成否は当社の業績や財務状況に影響を与える可能性があります。
- 現在発売している主要製品や将来発売が予定されている大型新薬が、万が一特許失効、製品の欠陥、予期せぬ副作用などの要因により、販売中止となったり、売上が大幅に減少した場合、業績や財政状態に大きな影響を及ぼします。また、当社が販売している製品の多くは、他社から製造販売権、ならびに販売権を供与されていますが、契約期間満了後、契約条件の変更や、販売提携の解消などが起こった場合、業績に影響を及ぼします。
- 原材料の中には供給を特定の取引先に依存しているものがありますが、何らかの要因によりこうした原材料の供給が停止した場合や、これに起因して当社の製品の供給が滞った場合、業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

The logo for Santen features a stylized 'S' in a light blue color, followed by the word 'Santen' in a bold, dark blue sans-serif font.

A Clear Vision For Life